

一 般 (代 表) 質 問 通 告 一 覧 表

令和5年第7回笠岡市議会定例会

9月11日・12日(2日間)

通 告 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 者
<p>1 公明党 齋藤 一信</p>	<p>1 笠岡市立市民病院の産科医療体制について</p> <p>2 公共交通への市の考えについて</p>	<p>岡山県井笠地域の医療機関で唯一、妊婦の分娩を担っていた産婦人科医院が12月末で閉院します。出産できる医療機関がクリニックの閉院に伴い無くなることとなりました。</p> <p>笠岡市では、市民病院の産婦人科が2018年に分娩を休止しています。今後、安心して子供が産める産科医療体制の立て直しが急務になります。</p> <p>笠岡市は、妊婦支援は当然のこと、笠岡市立市民病院の産科医療体制を整えるべきと考えますが、市のお考えをお尋ねします。</p> <p>先般、白石島・笠岡(伏越)間のフェリーを運航している三洋汽船が、利用者の減少や船の老朽化、燃油価格の高騰などを理由に、2023年12月31日に運行を休止すると決定しました。それ以降、白石島に寄港するフェリーは、別の船会社が本土と北木島間を運行し、白石島を経由するフェリーのみとなります。</p> <p>そのことを受け、島で生活する市民から安定的な生活を送るための交通手段の確保を求める声が上がっています。</p> <p>(1) 今後、持続可能な運航体制を実現するため、笠岡市がどのような方針をお持ちか、早急に市民に示すべきと考えます。海上交通の維持について、市の方針を尋ねます。</p> <p>(2) 物価高騰に伴い、タクシー料金が、医療機関に通院する高齢者の生活をじわじわと圧迫しています。タクシーチケット助成の増額を願う声をお聞きしました。</p>	<p>関係部長</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p>

	<p>3 イノシシ駆除について</p>	<p>通院もままならない状況を生んでしまうわけにはいきません。</p> <p>笠岡市高齢者タクシー料金助成事業の増額が急務だと考えますが、市のお考えをお示してください。</p> <p>(1) 地域住民組織への協力金は3年間を目途に支出を行うとし、地域住民組織協力金制度がスタートしましたが、今後の笠岡市の同制度及び協力金予算についての方針をお示してください。</p> <p>(2) 猟友会との関係改善及び、協力体制への協力が得られるよう市が調整することとなっていますが、現在の状況、取組をお示してください。</p> <p>(3) 市民全体のイノシシ駆除への取組の意識向上や、猟友会を中心とする駆除に係るノウハウ、技術の向上を目的とした「イノシシ・シンポジウム」を市が定期的に主催し、全市的に取組への理解を深めていく場づくりを行うべきと考えます。</p> <p>市のお考えをお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
<p>2 改革21 藤井 義明</p>	<p>1 財政状況について</p>	<p>(1) 現在、「笠岡市は財政難である」と認識しているが、財政状況をどのように考えているのか尋ねる。</p> <p>(2) 財政力指数(稼ぐ力)が平成27年度は0.54(県下15市中5位)、令和3年度は0.57(県下15市中4位)であり、上昇傾向であると「広報かさおか」に記載されている。</p> <p>しかし、財政力指数は、現実の歳出に基づく指標ではないため、財政力指数が大きくても現実の歳出を賄うことができる保証はない。</p> <p>自治体が罹患する3つの病気、それは「資金不足」、「借入過多」、「収支悪化」と指摘さ</p>	<p>市長</p>

		<p>れている。</p> <p>(ア) 積立金現在高の標準財政規模に対する割合は小さいほうが資金不足(貯金が少ない状態)を表しているが、本市における平成27年度及び令和3年度の数値並びに県下15市中の順位を尋ねる。</p> <p>(イ) 地方債現在高の標準財政規模に対する割合は大きいほうが借入過多(お金を借り過ぎている状態)を表しているが、本市における平成27年度及び令和3年度の数値並びに県下15市中の順位を尋ねる。</p> <p>(3) 令和3年度に減債基金2億3,380万9,000円を積み上げているが、「借金をしながら、減債基金への繰り入れのためにさらに借金するのはいかがなものか」と考える。 なぜ必要なのか尋ねる。</p> <p>(4) 市長公約には税収V字回復と書かれているが、いつ達成されるのか尋ねる。</p> <p>(5) 「積極的に企業誘致を進めてきた里庄町は、現在も人口動態が微増していて、これは働く場所がなければ、人口減少に歯止めをかけることができないことの証左といえる。」との発言があった。本市も企業誘致をしているが、人口減少に歯止めはかかっていない。 この事実をどう受け止めているのか尋ねる。</p> <p>(1) 6月定例会での質問の中で、西日本豪雨災害対応検証報告書の内容と教育委員会の説明にそごがあったことについて、「検証(調査)報告書」が出されたが、そごが生じた経緯、理由、再発防止については何ら言及していない。これでは何のための検証かわからない。今後どうするのか尋ねる。</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>教育長</p>
	<p>2 金浦中学校 ブロック施設 一体型小中一 貫教育校舎建 設について</p>		

		<p>(2) 金浦中学校の敷地は干拓地である。南海・東南海地震の際には液状化が予測される。新校舎建設後は、当然避難場所となり、避難に必要な道路の液状化対策は欠かせないと考えるが、対策はどのように考えられているのか尋ねる。</p> <p>(3) 現在の校舎は耐震化され、教室へのクーラー設置、洋式トイレも十分ではないが設置されている状況である。</p> <p>土石流災害、内水氾濫の危険性がある場所に、約40億円もの建設費用をかけ新校舎を建設することを中止し、物価高等に苦しんでいる子育て世代のために、給食費無償化や保育料完全無償化等にその予算を使うことはできないか尋ねる。</p>	<p>教育長</p> <p>〃</p>
<p>3 創政みらい 仁科 文秀</p>	<p>1 市長の公約及び「正のスパイラル」の実現について</p>	<p>市長就任1期目では、市制施行以来初めての民間出身市長として、民間の発想、考え方を行政に取り入れ、笠岡を変えようと市政に取り組みされた。</p> <p>また、2期目の最初の令和2年6月定例会では、市長は正のスパイラルの実現(親子二世帯、三世帯が一緒に暮らせる社会づくり)を発表された。企業誘致や市有地の売却、ふるさと納税の収益などを財源に「教育三改革」「インフラ整備」「産業振興と観光」「子育て・福祉の充実」の4本柱を推進していくというものである。</p> <p>(1) 1期目の7つの公約と合わせ、10の政策の柱を掲げ公約として発表された。</p> <p>7年半の任期の中で公約は順調に実現でき、次への道筋がついたと考えているのか尋ねる。</p> <p>(2) 新たな財源の確保を原資とした4本柱の取組と成果についてはどう考えているか尋ねる。</p>	<p>市長</p> <p>〃</p>

	<p>2 笠岡市の少 子化対策・人口 減対策につい て</p>	<p>(3) 笠岡市で、親子二世代、三世代と一緒に暮らせる社会を実現するために必要なことと、その対策について尋ねる。</p> <p>(4) 4本柱の中でも特に「農業テーマパーク」、「障害者のノーマライゼーション」については、それぞれ何を、いつまでに、どのように実施していくのか尋ねる。</p> <p>本市の令和4年度の出生数は177人と、令和3年度の179人を下回り、市制施行以来最低を記録した。本市より人口の少ない井原市が189人、浅口市が195人と聞く。過去に日本創成会議が2010年から2040年にかけて、20歳から39歳の女性の数が5割以下に減る自治体を「消滅可能性都市」として発表した。その896市町村の中に本市も入っているが、何とか本市を消滅させないように維持発展させていかなければならない。</p> <p>国は少子化に強い危機感を持ち、異次元の少子化対策を行うと強調している。</p> <p>(1) 本市の少子化・人口減が進むことは、止められないことと考えるか、それとも食い止めるために対策を強力的に推し進めるのか尋ねる。</p> <p>(2) 市長は「若い世代の皆さんが笠岡市で働くことを選び、そこに出会いがあり、結婚し、子供が生まれ、マイホームを建てて子育てをしてくれる」とよく言われるが、現実はどうなっていないのはなぜか尋ねる。</p> <p>(3) 若い世代に対する「子育て意識啓発事業」は大切であり、今後も重要度は増すと思うが、本市の考えを尋ねる。</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
	<p>3 笠岡市公共 施設等総合管 理計画につい</p>	<p>平成28年に神奈川県秦野市の取組について、市を挙げて聞く機会があり、その後、本市でも「笠岡市公共施設等管理計画」が策定された。</p>	

<p>て</p> <p>4 これからの 笠岡づくりに 若い人たちの 意見・提案をど う反映させる かについて</p>	<p>本市は人口規模に比べて、特に、俗にいうハコモノ施設が 370 施設と多く、築 50 年以上の古い建物も 10%以上ある。維持管理費も相当額にのぼり、市の財政を圧迫している。計画では、10 年後までに 7.2%の削減、40 年後までに 25%の削減と、本市の人口減少の割合とほぼ比例する数を削減する目標を立てている。</p> <p>(1) 計画の策定後、新給食センター建設などもあったが、現在までの削減実績は計画どおり進んでいるか尋ねる。</p> <p>(2) 計画では、道路・橋梁の更新費用を含めると毎年 13 億 3,000 万円(31.7%)の財源不足を生じると説明しているが、現状はどうか尋ねる。また、今後の公共施設の削減の在り方について考えを尋ねる。</p> <p>(3) 経費削減を考える上で、施設の更新については複合施設にするという考え方がある。他の自治体では、教育施設について老人施設、子育て支援施設との複合化を進めているところもある。本市の考えを尋ねる。</p> <p>(4) 公共施設の維持管理・更新について、市民への情報公開はどうしていくのか尋ねる。</p> <p>笠岡市が将来にわたって活力あるまちであるために、また、少子化、高齢化、人口減少が進む本市が、安定的に持続するためには、本市の将来を担う若者や子育て世代をターゲットにした政策、具体的な施策がポイントである。</p> <p>そのためには、若い人たちの意見・提案をもっと積極的に聴き、政策に反映させる必要がある。</p> <p>以下について尋ねる。</p> <p>(1)若者会議開催の現状と課題</p> <p>(2)地域おこし協力隊の現状と課題</p> <p>(3)各種計画・施策への若者の意見の反映</p> <p>(4)高校・高校生及び中学校・中学生との連携</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
--	---	---

<p>4 讃志会 奥野 泰久</p>	<p>1 第7次笠岡市総合計画の進捗について</p>	<p>企業誘致を起点とする経済の好循環を地域経済の活性化につなげ、教育・福祉への再投資をすることで、20年後、30年後といった長期的な視点で将来を見据えた行政運営が実現してくると思う。</p> <p>(1)企業誘致の実績について</p> <p>企業誘致の実績として、市長就任以降の誘致企業数、投資額、雇用人数はどのくらいか尋ねる。また、税収増や住宅の着工件数増など、企業誘致が地域経済に及ぼした影響はどのようなものがあるのか尋ねる。</p> <p>(2)人口減少問題について</p> <p>先日、日本人の人口が14年連続で減少し、初めて47都道府県全てで減少したという報道があった。減少数は約80万人であり、政令指定都市1市分、または、人口が少ない県1県分の人口が減少している状況である。</p> <p>本市においては、第7次笠岡市総合計画後期計画の策定に合わせ、少子高齢化・人口減少に対応し、将来にわたって活力ある地域社会を維持していくため、笠岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の第2期をスタートさせたところであるが、その進捗について尋ねる。</p> <p>(3)外部環境を生かす施策について</p> <p>本市を中心とする30キロ圏内の人口は100万人を数える。一般国道2号笠岡バイパスの整備や、篠坂パーキングエリアスマートインターチェンジの供用開始が間近に迫っており、新たな交通動線ができることで、今後、倉敷市や福山市といった中核市との近接性がさらに高まってくる。本市としてこうした外部要因のプラス面をどのように捉えているのか尋ねる。</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
------------------------	----------------------------	--	-----------------------------

		<p>また、機会損失のないよう相乗効果を狙い、関連する本市の事業を今後どのように実施していくのか尋ねる。</p> <p>(4)持続可能な循環型施策について</p> <p>本市においては、笠岡湾干拓地を中心に環境負荷に配慮した持続可能な循環型農業の実現を目指すということであるが、農業の活性化や農地の有効利用とともに、約1万頭を超える牛の臭気対策が中心市街地における住環境の大きな課題となっている。</p> <p>長い年月をかけて、先人の知恵と工夫により作られた干拓地を有効に活用するため、本市の農業における循環型施策の内容とその進め方について尋ねる。</p>	<p>市長</p>
--	--	---	-----------